

第 309 回くらしの植物苑観察会 令和 6 年 12 月 21 日 (土)

## 「サザンカの楽しみ方」

加地 典子氏 埼玉県花と緑の振興センター 園芸相談員

さざんか さざんか 咲いた道 焚き火だ 焚き火だ 落ち葉焚き  
当たろうか 当たろうよ しもやけ おててが もう痒い

昭和 5, 6 年頃異聖歌によって作詞された「たきび」は日本人なら誰でも知っている晩秋から初冬にかけての童謡です。私の幼少期の昭和 60 年代には路上で焚き火をする習慣はすでになく、サザエさんで見る焚き火で焼き芋は私の憧れの景色でした。この歌の歌詞から落ち葉が沢山落ちて、しもやけができるほど寒くなった頃にサザンカは咲くものだとということが良く分かります。今年は私が知る限りで最もサザンカの開花が遅いです。前任の箱田氏によるとベトナムではサザンカは元気だが、あまり開花しないそうです。寒さの到来が遅れると開花が遅れるサザンカは、寒くなると開花が促進される性質があるのではないかと考えられます。くらしの植物苑の展示「冬の華サザンカ」のタイトルどおり冬の始まりを告げる花なのです。



サザンカとツバキの違いはどんなところでしょうか。1つは開花時期です。ツバキは3月～4月の春に主に開花し、サザンカは10月～12月の晩秋～冬にかけて主に開花します。散り方も異なり、ツバキは花ごとポトッと散り、サザンカはハラハラと花びらが舞います。

このような特徴にも例外が見られ、ツバキには11月から開花する早咲きのものがあります。例年であれば、私が勤める花と緑の振興センターではサザンカとワビスケ系のツバキ“西王母”<sup>せいおうぼ</sup>は同時期から開花します。“西王母”は蕾や花が丸みのある薄い桃色の花です。“西王母”は11月～年

明けまでポツポツと咲いていきます。それに対してサザンカは圧倒的な開花数で株一面を覆います。写真左はツバキの「西王母」、右はサザンカの「七福神」です。

①



②



① ツバキ“西王母”満開

② サザンカ”七福神“満開

サザンカの知られざる魅力としては香りがあります。香りの成分は揮発性のものですので、温度が高ければ良く香ります。サザンカの香りがこんなに強く感じたのは今年が初めてです。今年には香りにも注目して観察したいものです。

サザンカが咲く11月は茶道では炉開<sup>ろびら</sup>きの季節を迎えます。炉の季節の茶花は主にツバキを用いるそうです。現在の茶道の形を完成させた千利休の活躍したのは室町時代。この時代サザンカは見たことがない方がほとんどだったでしょう。なぜならサザンカは日本の四国、九州、山口県の一部にしか自生していないからです。当時は炉開きの時期に開花しているツバキは珍しかったでしょうが、サザンカは同じくらいかそれ以上に珍しかったかもしれません。古い茶会記にはサザンカを用いた記録が残っています。茶花は茶席においてお客様との会話のきっかけを作ってくれるものです。サザンカは現代人にとっては「たきび」の歌にあるような懐かしい風景を思い出させてくれる花となりました。先人たちが珍しい花として楽しんだサザンカを、懐かしい思い出の花としてサザンカを囲んで語り楽しんでいただけたら嬉しいです。

.....

**次回予告** 第310回くらしの植物苑観察会 令和7年1月25日(土)

「くらしの中に息づく植物—野菜の歴史—」

天野 誠 氏 (千葉県立中央博物館 上席研究員)

13:30~15:30 くらしの植物苑 東屋 申込不要